

【留意事項】

- (1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。
 ※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載
 ※2 3回線送電線(3バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し2回線(2バンク)分の容量を記載
 ※3 4回線送電線(4バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し3回線(3バンク)分の容量を記載
 ※4 5回線送電線(5バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し4回線(4バンク)分の容量を記載
 ※5 1回線(1バンク)故障時の電源抑制や系統切替を前提に時間を限定して使用できる設計上の熱容量を考慮
 ※6 ループ系統構成(電源線を含む)を考慮
 (2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。
 (3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度などで連系制約が発生する場合があります)。
 (4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可否が変更となる場合があります。適用不可の場合の理由は以下のとおりです。
 #1 基幹系ループ系統のため
 #2 1回線送電線のため
 #3 1バンク変電所(分割運用等含む)のため
 #4 配電用変電所のため
 #5 安定度制約のため(制約が確認できているもの)
 #6 2回線送電線の分割運用等のため
 (5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変更となる場合があります。
 (6) 平常時出力制御が必要となりうる設備欄は、平常時出力制御が発生する可能性について、想定潮流の合理化の考え方に基づいた将来の発電機出力・電力需要から想定し、該当設備を記載しております。
 * https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330_souteichoryu_gourika_shiryou.html
 (7) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。
 (8) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工費の一部を負担いただくことがあります。
 (9) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開しておりません。
 (10) 個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量運用容量、N-1電制可否、N-1電制可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。

〔9 赤坂地区〕

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	潮流方向	予想潮流 (MW)	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御 の可能性	平常時出力制御が必要となりうる設備		備考
									当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系等設備	
1	西福岡赤坂線	220	2	532	292	熱容量	西福岡 → 赤坂	103	-	-	可	239	-	-	-	
2	赤坂須崎線	66	2	200	110	熱容量	赤坂 → 須崎	0	-	-	可	90	-	-	-	
3	赤坂渡辺通線	66	2	246	135	熱容量	赤坂 → 渡辺通	25	-	-	可	110	-	-	-	
4	赤坂荒戸線	66	2	68	68	熱容量	赤坂 → 荒戸	7	-	-	不可 #6	0	-	-	-	
5	赤坂百道線	66	2	282	155	熱容量	赤坂 → 百道	45	-	-	可	126	-	-	-	
6	大濠西新線	66	2	152	83	熱容量	大濠 → 西新	0	-	-	可	68	-	-	-	
7	西新百道線	66	2	256	140	熱容量	百道 → 西新	12	-	-	可	115	-	-	-	
8	百道姪浜線	66	2	208	114	熱容量	百道 → 姪浜	18	-	-	可	93	-	-	-	
9	福陵分岐線	66	2	158	86	熱容量	百道 → 福陵	0	-	-	可	71	-	-	-	
10	七隈福陵線	66	2	220	121	熱容量	七隈 → 福陵	8	-	-	可	99	-	-	-	
11	長尾七隈線	66	2	220	121	熱容量	長尾 → 七隈	20	-	-	可	99	-	-	-	
12	長尾大濠線	66	2	208	101	熱容量	長尾 → 大濠	12	-	-	可	106	-	-	-	
13	長尾野間線	66	2	208	114	熱容量	長尾 → 野間	16	-	-	可	93	-	-	-	
14	中尾分岐線	66	2	200	110	熱容量	長尾 → 中尾	3	-	-	可	90	-	-	-	
15	長尾重留線	66	2	94	53	熱容量	長尾 → 重留	2	-	-	可	40	-	-	-	
16	西福岡長尾線	66	4	736	634	熱容量	西福岡 → 長尾	64	-	-	可	101	-	-	-	※3上位系(変圧器No.2-1 西福岡変電所)による制約
17	野間渡辺通線	66	2	240	130	熱容量	渡辺通 → 野間	18	-	-	可	109	-	-	-	
18	那の川分岐線	66	2	156	85	熱容量	渡辺通 → 那の川	18	-	-	可	70	-	-	-	上位系(送電線No.17 野間渡辺通線)による制約
19	西福岡今宿線	66	2	430	215	熱容量	今宿 → 西福岡	~11	-	-	可	215	-	-	-	
20	壱岐分岐線	66	2	256	140	熱容量	今宿 → 壱岐	0	-	-	可	115	-	-	-	
21	重留分岐線	66	2	102	58	熱容量	今宿 → 重留	0	-	-	可	43	-	-	-	上位系(9赤坂地区 送電線No.15 長尾重留線)による制約

【留意事項】

- (1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。
- ※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載
 - ※2 3回線送電線(3バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し2回線(2バンク)分の容量を記載
 - ※3 4回線送電線(4バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し3回線(3バンク)分の容量を記載
 - ※4 5回線送電線(5バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し4回線(4バンク)分の容量を記載
 - ※5 1回線(1バンク)故障時の電源抑制や系統切替を前提に時間を限定して使用できる設計上の熱容量を考慮
 - ※6 ループ系統構成(電源線を含む)を考慮
- (2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。
- (3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。
- (4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可否が変更となる場合があります。適用不可の場合の理由は以下のとおりです。
- #1 基幹系ループ系統のため
 - #2 1回線送電線のため
 - #3 1バンク変電所(分割運用等含む)のため
 - #4 配電用変電所のため
 - #5 安定度制約のため(制約が確認できているもの)
 - #6 2回線送電線の分割運用等のため
- (5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変更となる場合があります。
- (6) 平常時出力制御が必要となりうる設備欄は、平常時出力制御が発生する可能性について、想定潮流の合理化の考え方に基づいた将来の発電機出力・電力需要から想定し、該当設備を記載しております。
- * https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330_souteichoryu_gourika_shiryou.html
- (7) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。
- (8) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。
- (9) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開していません。
- (10) 個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量運用容量、N-1電制可否、N-1電制可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。

〔9 赤坂地区〕

変電所 No	変電所名	電圧 (kV)		台数	設備容量 (100%×台数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	予想潮流 (MW)	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御 の可能性	平常時出力制御が必要となりうる設備		備考
		一次	二次						当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系等設備	
1	赤坂	220	66	2	570	285	熱容量	103	—	—	可	285	—	—	—	上位系(送電線No.1 西福岡赤坂線)による制約
2(1)	西福岡	220	66	2	450	237	熱容量	75	—	—	可	212	—	—	—	
2(2)	西福岡	66	6	3	47	47	熱容量	—	9	9	不可 #4	—	—	—	—	
3	荒戸	66	6	3	52	52	熱容量	—	14	14	不可 #4	—	—	—	—	
4	渡辺通	66	6	3	42	42	熱容量	—	14	14	不可 #4	—	—	—	—	
5	大濠	66	6	2	57	57	熱容量	—	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
6	那の川	66	6	3	85	85	熱容量	—	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
7(1)	西新	66	6	3	76	76	熱容量	—	19	19	不可 #4	—	—	—	—	
7(2)	西新	66	22	2	57	57	熱容量	—	27	27	不可 #4	—	—	—	—	
8	百道	66	22	2	76	76	熱容量	14	—	—	不可 #4	—	—	—	—	
9	姪浜	66	6	3	85	85	熱容量	—	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
10	福陵	66	6	3	66	66	熱容量	—	19	19	不可 #4	—	—	—	—	
11	七隈	66	6	3	85	85	熱容量	—	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
12	長尾	66	6	3	76	76	熱容量	—	19	19	不可 #4	—	—	—	—	
13	中尾	66	6	1	28	28	熱容量	—	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
14(1)	野間	66	6	3	85	85	熱容量	—	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
14(2)	野間	66	22	2	15	15	熱容量	—	5	5	不可 #4	—	—	—	—	
15	重留	66	6	3	85	85	熱容量	—	26	26	不可 #4	—	—	—	—	
16	壱岐	66	6	2	57	57	熱容量	—	25	25	不可 #4	—	—	—	—	